

**ShinEtsu**

しんえつ・レポート

# 第129期中間事業報告書

(2005年4月1日～2005年9月30日)



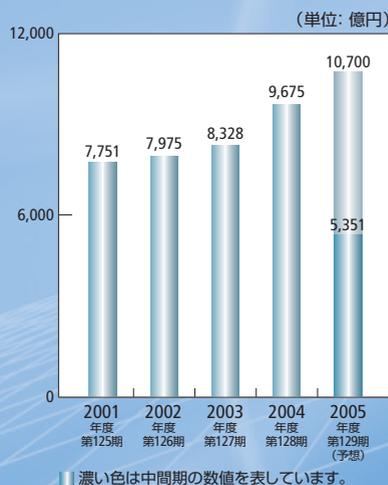
# 業績ハイライト(連結)

## 信越化学工業株式会社

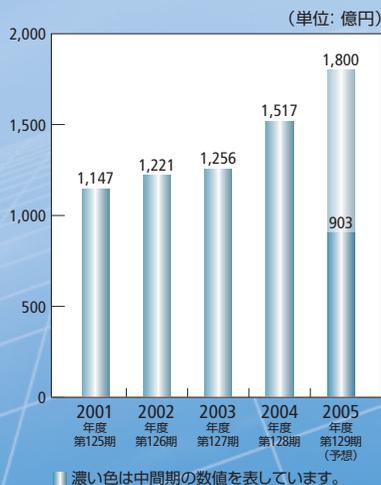
(単位:百万円)

	2004年度		2005年度 中間期
	中間期	通 期	
売上高	468,532	967,486	535,103
営業利益	76,774	151,734	90,291
経常利益	75,815	151,503	90,037
中間(当期)純利益	46,477	93,160	55,611
一株当たり中間(当期)純利益	110.37円	219.10円	129.68円
一株当たり中間(年間)配当金	10.00円	20.00円	17.50円
株主資本	947,701	996,307	1,077,074
総資産	1,433,188	1,476,248	1,551,809

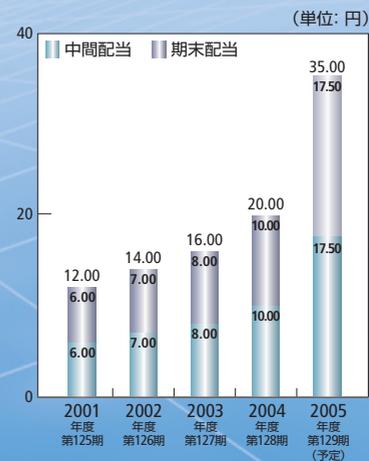
### 連結売上高



### 連結営業利益



### 1株当たり配当金



#### 見通しに関する注記事項

当資料に記載の業績見通しは、現在入手している情報による判断および仮定に基づいた見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。実際の業績に影響を与え得る重要な要素には、当社および当社グループ会社の事業領域ととりまく経済情勢、市場の動向、対米ドルをはじめとする円の為替レートなどが含まれます。ただし、業績に影響を与え得る要素はこれらに限定されるものではありません。

## 株主・投資家の皆さまへ



# 信越グループは「成長し続ける会社」を目指し、 企業価値の向上を実現していきます。

株主・投資家の皆さまにおかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。第129期(2005年4月1日から2006年3月31日まで)の中間事業報告書をお届けするにあたり、ごあいさつ申し上げます。

代表取締役社長 金川千尋

### ▶ 2005年度上半期の業績

当社グループは、企業価値を高めることを第一とする株主重視の経営を基本方針としています。このために、世界最高水準の技術、品質、コスト競争力を達成し、世界各国の数多くの顧客と安定した取引関係を築きながら、経済情勢や市況の変化に的確に対応できる事業体制の確立を図っています。

当中間期の日本経済は、設備投資が好調に推移したことに加え、雇用環境の改善などから個人消費にも増加傾向が見られるなど、緩やかな回復基調をたどりました。一方、米国や中国・東南アジア経済でも、景気の拡大が続きました。

このような状況のもと、当社グループは、世界市場で培った営業力や特徴ある製品群を生かして世界の幅広い顧客に販売を行うとともに、事業のさらなる発展のための投資や経営の合理化・効率化を積極的に推し進め、国内、海外とも各事業分野において概ね好調に推移しました。とりわけ、電子材料・化学業界における市況変動を的確に捉え、収益を伸ばすための投資を含めたさまざまな経営施策の積み重ねが奏功し、収益を大幅に伸ばしました。

この結果、当中間期の売上高は、前中間期に比べ14.2%増の535,103百万円、営業利益は、前中間期に比べ17.6%増の90,291百万円となり、経常利益も、前中間期に比べ18.8%増の90,037百万円となりました。また、中間純利益は、前中間期に比べ19.7%増の55,611百万円となり、いずれも前年同期を大幅に上回る2ケタ伸長を達成しました。

### ▶ 今後の事業展開

#### 塩化ビニル事業

塩化ビニル樹脂は、優れた物性・加工性・経済性を兼ね備え、原油・天然ガスへの依存度が低い汎用樹脂として、中国・東南アジアだけでなく、北米や欧州でも需要が堅調に伸びています。米国のシンテック社は、米国および世界の需要増に対応していくため、電解から塩化ビニル樹脂までの大型一貫製造工場の建設計画に取り組んでいます。また、オランダのシンエツPVC社も順調に事業を伸ばし、市場の伸びに応じた能力増強を順次行っています。今後も日本・米国・欧州の3拠点を足がかりに、世界市場で培った営業力を十分に生かし、世界市場をターゲットとした事業の強化に努めていきます。

#### シリコーン事業

シリコーン事業は、電気・電子、自動車、建築、化粧品・トイレタリーなど幅広い需要分野を有し、これら産業の発展とともに事業を拡大してきました。今後もシリコーンの持つ特性を生かした新製品の開発を促進し、国内はもとより、タイ工場、米国の機能性シラン工場の安定操業に注力し、世界に向けて事業の拡大に努めていきます。

#### セルロース事業

セルロース事業では、幅広い製品群と、日本とドイツの2拠点を有する強みを生かして事業の拡大に努めており、日本とドイツそれぞれの拠点で生産能力の増強にも取り組んでいます。

## 半導体シリコン事業

半導体シリコン事業では、300mmウェハの需要増を的確に捉え、対応しています。国内では信越半導体(株)白河工場の生産能力の増強工事を急ピッチで進めるとともに、米国での単結晶生産を2005年5月から開始し、供給能力の分散と安定供給の向上を図っています。200mm以下の製品では、高品質化による事業の安定に引き続き取り組んでいきます。

さらに事業安定化のため、半導体シリコンの加工委託先である三益半導体工業(株)との資本提携を強化しました。また、特殊ウェハの拡販にも注力します。

## 合成石英事業、希土類磁石事業

合成石英事業では、液晶パネル製造用の大型マスク基板が好調に推移しており、今後の需要拡大に向けて的確に対応していきます。また、需要が好調なHDD(ハードディスク読み取り装置)向けに加え、家電、自動車向けなどに採用が進んでいる希土類磁石事業も増強を図っていきます。

当社グループでは、これらの既存事業の強化・充実に加えて、さらなる事業発展を目指した新しい事業の開拓に積極的に取り組んでいます。

### ▶ 信越グループの企業の社会的責任(CSR)に向けた取り組み

当社グループは、遵法精神を基本とした諸施策を行い、株主・投資家の皆さまへ適時・的確な情報開示・広報活動に取り組むことをコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方とし、経営上の最も重要な課題のひとつに位置づけています。また「安全・環境第一」を経営の基本に置き、安全と環境保全の徹底を重視した事業活動を進めています。この一環として、当中間期においては、新潟の直江津工場では、排ガス・排水から塩水を回収しリサイクル使用する画期的な新システムを開発し、2005年7月から本格稼働を開始しました。これにより、当社グループが注力している排出物の大幅削減を達成することが可能となりました。

さらに企業の社会的責任(CSR)活動にも、CSR推進委員会を設置し積極的に取り組むことで、企業価値の維持拡大に努め、社会から信頼される企業を目指しています。同時に、従業員にとって働きやすい環境をつくるのが会社発展のための重要な課題であるとの認識のもと、各自の能力を最大限に発揮できるよう実力主義を徹底しています。

### ▶ 利益配分について

利益配分については、長期的な観点に立ち、事業収益の拡大と企業体質の強化を図りながら、継続した安定配当を基本に、業績などを勘案して利益還元を行うことを方針としています。この方針を踏まえ、当期の中間配当金につきましては、4期連続増配の1株につき17.5円とし、年間では前期より15円増配の1株につき35円を予定しています。

なお、内部留保金は、設備投資、研究開発投資、事業買収などに充当し、国際的な競争力の強化と今後の事業展開に積極的に活用し、企業価値を高めるよう努めていきます。

### ▶ 2005年度下半期の主な取り組みと今後の展開

下半期につきましては、日本経済は回復基調をたどるものと期待されますが、原料価格高騰の影響などが懸念され、米国・中国経済にも不透明感があることから、経営環境は予断を許さない状況にあります。こうした環境のもと、当社グループは、製造・販売・技術の各分野を一段と強化し、300mmウェハなど需要が増加する製品の拡販に注力するとともに、製造コストの国際競争力を高め、さらなる事業基盤強化に努めていきます。

株主・投資家の皆さまにおかれましては、今後ともより一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# 金川千尋

2005年11月  
代表取締役社長

# 過去1年間の信越グループの主な出来事

- 2004年 10月 ● シンテック社(米国)が操業開始30周年を迎える
- 11月 ● 新潟県中越地震の被災地へ義援金を寄付
- 12月 ● シンテック社の塩化ビニル樹脂一貫製造工場の建設計画を発表
- 信越半導体(株)の国内外での300mmウェハー生産能力の増強計画を発表
- 2005年 1月 ● シンエツPVC社(オランダ)が、塩化ビニル樹脂の生産能力増強計画を発表
- ムーディーズ ジャパン(株)が、当社長期債務格付けをA2からA1へ引き上げ
- 3月 ● 日独でのメチルセルロースの生産能力の増強計画を発表
- ネオジム系希土類磁石の高性能化技術を開発
- 日本酢ビ・ポパール(株)を完全子会社化
- 社会的責任投資インデックス「FTSE4Good」に組み入れられる
- 4月 ● CSR推進委員会を設置
- 7月 ● 三益半導体工業(株)の第三者割当増資の引き受けを決定
- 「知的財産戦略経営 企業ランキング」で1位
- 8月 ● 直江津工場の画期的なりサイクルシステムの本格稼働を発表
- 9月 ● 大型ハリケーンによる被害を受けたルイジアナ州(米国)へ、義援金を寄付
- 10月 ● 「環境・社会報告書2005」を発行

## 社会的責任投資インデックス 「FTSE4Good」に組み入れられる



当社は昨年に引き続き、社会的責任投資指数の「FTSE4Good (フィッツィーフォーグッド) Global Index」および「FTSE4Good Japan Index」に組み入れられました。今回のGlobal Indexには、2005年10月31日現在で世界の企業738社が組み入れられており、そのうち日本の企業は182社、化学メーカーは当社を含めて19社が組み入れられています。当社は今回で3回目の組み入れとなりました。FTSE4Good指数は企業の社会的責任に着目した株式指数であり、世界の多くの投資家に利用されています。

## 知的財産戦略経営 企業ランキングで1位

2005年7月12日付の日経産業新聞に、特許評価などを手がける調査会社(株)アイ・ビー・ビーによる「知的財産戦略経営 企業ランキング」が掲載され、当社が第1位となりました。このランキングは、化学、医薬品、電機、自動車、精密機器の5業種、485社を対象としています。知的財産戦略経営企業とは、知的財産(特許出願)、研究開発投入、事業展開(財務・収益)の3つの戦略をバランスよく進めた結果、生産性や企業価値を向上させている企業のことを指しています。当社の最先端の技術情報の収集や部門間の密な連携が、製品の競争力強化に有効に機能していると分析された結果です。

## 「環境・社会報告書2005」を発行



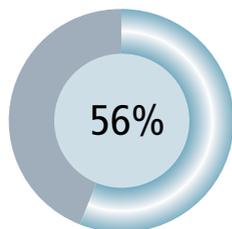
2005年10月に、「環境・社会報告書2005」を発行しました。この報告書は、当社グループの環境活動やCSRの取り組みをご報告するために作成しています。今回の報告書では、当社グループ会社の環境活動の例として、信越半導体(株)、日信化学工業(株)および日本酢ビ・ポパール(株)をとりあげています。詳細については以下のURLをご参照下さい。

<http://www.shinetsu.co.jp/j/profile/kankyo.shtml>

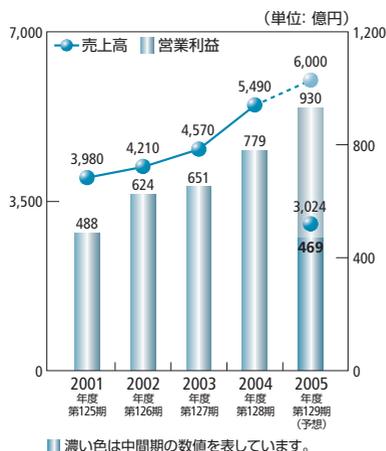
# 事業概況

## 有機・無機化学品

### 売上高構成比



### 売上高および営業利益



### ▶2005年度上半期の事業概況

塩化ビニル樹脂は、主力の米国のシンテック社が市況動向を的確に捉えた販売活動を行う中、北米の旺盛な住宅建設などにも牽引されフル生産を続け、原油・天然ガスなどの原料高を背景に売値も高水準で推移した結果、売上高と営業利益を大きく伸ばしました。オランダのシンエツPVC社も欧州全体の需要が堅調の中、順調に推移しました。国内では需要は昨年並みで推移しましたが、中国向けの輸出に従来のような勢いがなくなり、期後半には原油高によるコスト上昇の影響を大きく受けました。なお、国内では10月からの価格改定に取り組んでいます。これらの結果、塩化ビニル事業は売上を順調に伸ばし、営業利益が大きく増加しました。

シリコーンは幅広い需要分野を有しており、当中間期の国内販売は電気・電子向けをはじめ、自動車、化粧品向けなど総じて堅調であったことに加え、価格改定に取り組んできた輸出の寄与により、売上と利益を大幅に伸ばしました。操業開始2年目を迎えたタイ工場も収益が向上し、信越ポリマー(株)の携帯電話用キーパッドなどのシリコーン関連加工品も好調でした。

セルロース誘導体は、国内は医薬・自動車向けなどを中心に、またドイツのSEタイロース社は建材向けを中心にフル生産を続け、順調に推移し、業績に寄与しました。2004年度末より連結子会社となった日本酢ビ・ポパール(株)も業績に貢献しています。

この結果、当セグメントの売上高は、前中間期に比べ15.7%増の3,024億6百万円、営業利益は、前中間期に比べ22.2%増の468億9千1百万円となりました。

### ▶今後の展開

塩化ビニル事業では、米国のシンテック社、オランダのシンエツPVC社において、生産能力の増強を進めています。シリコーン事業では、世界に向けて販売を強化し、セルロース事業では、日本およびドイツにおける生産能力をより一層増強し、世界の需要に対応していきます。

## ■ 直江津工場で画期的なリサイクルシステムの本格稼働を開始

直江津工場で、塩水を回収しリサイクル使用する、画期的な新システムを開発し、2005年7月から本格稼働を開始しています。当社グループでは、従来より環境保全の推進に努めてきており、この新システムの稼働により、大きなテーマとして注力している排出物の大幅削減を達成することができます。

本システムは、直江津工場の主力製品であるメチルセルロースの製造工程で発生する排ガス・排水を一括して燃焼処理し、その過程で派生する塩水を回収します。その塩水を電解工程に再投入し、同工場のもうひとつの主力製品である、か性ソーダの原料としてリサイクル活用するものです。

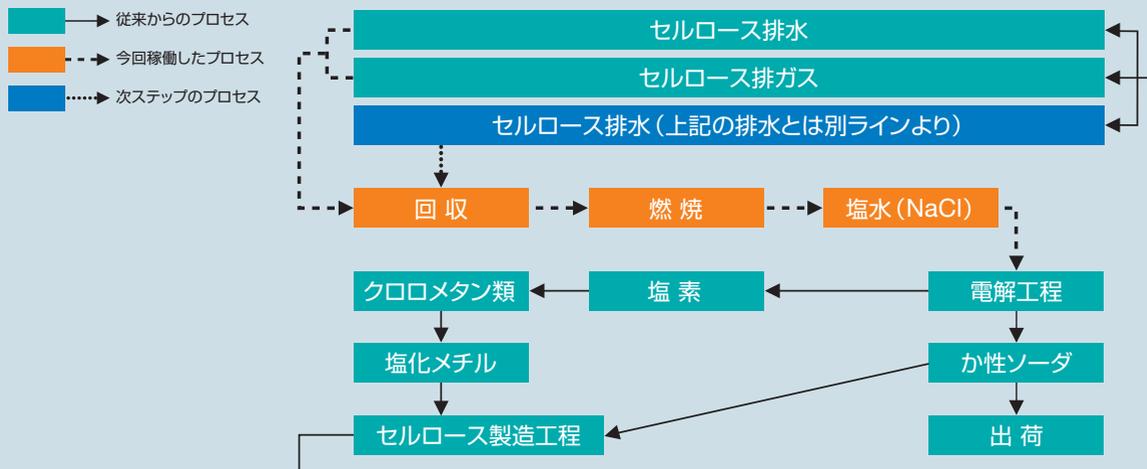
メチルセルロースの製造では塩化メチルが原料として使用さ

れ、製造工程で発生する排ガスには塩化メチルとVOC（有機化合物）が含まれています。当社は、これらの排出物の削減と有効活用を、自主的な課題として取り組んできました。このシステムの導入により、直江津工場における塩化メチルとVOCの排出量は、従来に比べ10分の1以下に削減できる見込みです。

次のステップとして、メチルセルロースの別の製造ラインで発生する排水も一括燃焼させるシステムへの改良を検討中であり、改良後は、直江津工場における現在の塩の使用量の約10%にあたる量を、回収できる見込みです。

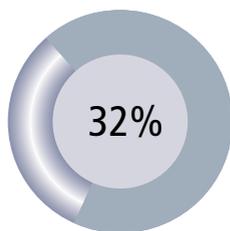
今後も当社グループは、ゼロ・エミッションの達成に向け、さらなる活動を世界の全事業所において展開していきます。

### 信越化学工業(株)直江津工場 新・リサイクルシステム工程図

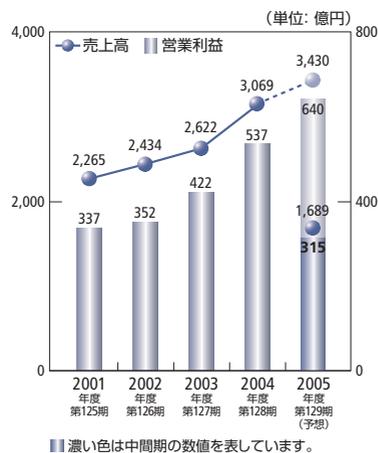


## 電子材料

### 売上高構成比



### 売上高および営業利益



### ▶2005年度上半期の事業概況

半導体シリコンは、パソコン、携帯電話、デジタル家電、自動車など幅広い分野で半導体デバイスの需要が伸びています。こうした状況の中、300mmウェハは的確な販売政策に基づいた積極的な増強投資が需要の伸びに合致し、また200mmウェハも期後半に入り繁忙感が高まり、売上高、営業利益とも大きく増加しました。

電子産業用希土類磁石は、パソコン用、サーバー用、映像記録用に加え、携帯音楽プレーヤー用ハードディスクドライブ(HDD)向けの出荷が好調でした。

電子材料用有機材料、フォトレジスト製品も、半導体デバイスの高性能化を捉え、収益を伸ばしました。

この結果、当セグメントの売上高は、前中間期に比べ12.0%増の1,689億1千5百万円、営業利益は、前中間期に比べ14.6%増の314億8千3百万円となりました。

### ▶今後の展開

半導体シリコン事業では、ウェハの生産能力の増強を進め、需要が増加している製品の拡販に注力していきます。また、200mm以下の製品の高品質化、特殊ウェハの拡販にも注力します。

### ■三益半導体工業(株)の第三者割当増資の引き受け



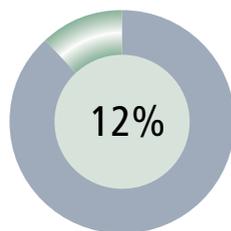
三益半導体工業 上郊工場

当社は三益半導体工業(株)が実施した第三者割当増資を全額引き受け、同社株式を取得しました。これにより、三益半導体工業(株)は当社の関連会社となりました。当社はこれまで長年にわたり三益半導体工業(株)へ半導体シリコンウェハの加工を委託しており、信頼関係を築いてきました。

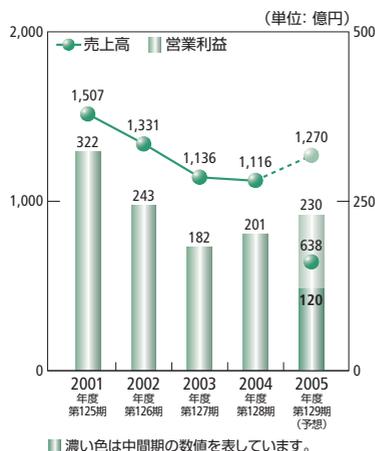
今後は技術面での交流をさらに促進し、最先端加工技術の共同開発に取り組むなど積極的に協調関係を深めていきます。

## 機能材料・その他

## 売上高構成比



## 売上高および営業利益



## ▶2005年度上半期の事業概況

合成石英製品は、液晶パネル向け大型マスク基板を中心に好調に推移し、売上高、営業利益ともに増加しました。

一般用希土類磁石は、エアコン、自動車、FA機器向けを中心に堅調に推移しました。

自動車分野などに採用が広がっている液状フッ素エラストマーも順調でした。

その他の事業では、各種プラントなどの設計・建設および機器の出荷が堅調でした。

この結果、当セグメントの売上高は、前中間期に比べ13.2%増の637億8千1百万円、営業利益は、前中間期に比べ10.6%増の120億2千8百万円となりました。

## ▶今後の展開

合成石英事業では、液晶パネル製造用の大型マスク基板が引き続き好調に推移しており、今後も需要拡大に対応していきます。希土類磁石事業についても、生産能力の増強を図っていきます。また、その他にも新規製品の研究開発と事業化に注力し、積極的な投資を行っていきます。

## ■ 機能材料の戦略製品 合成石英フォトマスク基板



テレビやパソコンの画面はブラウン管からフラットパネルの時代となり、中でも液晶パネルの普及は急速に進んでいます。

合成石英フォトマスク基板は、液晶パネルを量産するための原版(ネガ)の役目を果たしていますが、当社はこの合成石英フォトマスク基板で世界トップシェアを誇り、業界最高水準の高フラットネス化、低欠陥化を実現しています。また液晶パネルの大型化にもいち早く対応し、世界のトップメーカーとして、液晶産業の発展に貢献しています。

# 連結決算の概要

## 連結貸借対照表

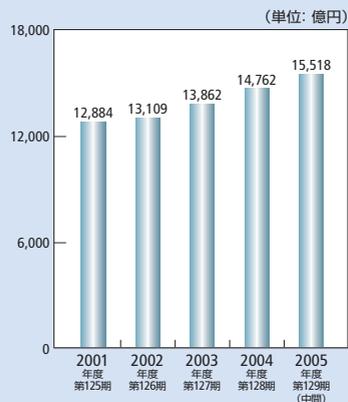
(単位：百万円)

科 目	前中間期 2004年9月30日現在	当中間期 2005年9月30日現在
<b>(資産の部)</b>	<b>(1,433,188)</b>	<b>(1,551,809)</b>
流動資産	747,508	846,716
現金・預金	218,375	246,474
受取手形・売掛金	241,432	251,115
有価証券	112,979	149,430
たな卸資産	118,174	139,394
その他	56,545	60,301
固定資産	685,680	705,093
有形固定資産	445,428	452,842
建物及び構築物	154,205	155,896
機械装置及び運搬具	209,201	206,200
その他	82,021	90,745
無形固定資産	24,762	25,237
投資その他の資産	215,489	227,012
投資有価証券	190,003	190,995
その他	25,486	36,017
<b>合 計</b>	<b>1,433,188</b>	<b>1,551,809</b>

(単位：百万円)

科 目	前中間期 2004年9月30日現在	当中間期 2005年9月30日現在
<b>(負債の部)</b>	<b>(457,854)</b>	<b>(443,447)</b>
流動負債	336,374	326,218
支払手形・買掛金	123,614	122,069
短期借入金	38,678	21,765
一年以内償還社債・転換社債	11,599	7,212
その他	162,482	175,171
固定負債	121,479	117,228
社債	29,168	22,000
長期借入金	53,639	45,848
その他	38,671	49,380
(少数株主持分)	(27,632)	(31,288)
<b>(資本の部)</b>	<b>(947,701)</b>	<b>(1,077,074)</b>
資本金	113,619	119,419
資本剰余金	122,384	128,178
利益剰余金	737,760	831,121
その他有価証券評価差額金	9,932	23,684
為替換算調整勘定	(-) 24,762	(-) 14,396
自己株式	(-) 11,233	(-) 10,934
<b>合 計</b>	<b>1,433,188</b>	<b>1,551,809</b>

## 総資産



## 株主資本／株主資本比率

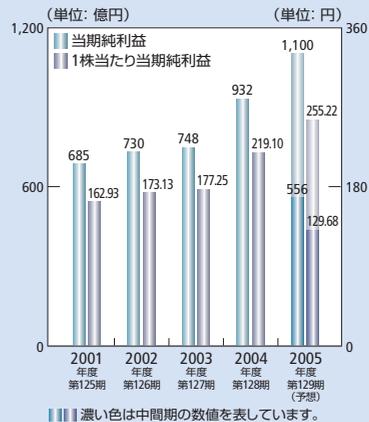


## 連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	前中間期 2004年4月1日 ～2004年9月30日	当中間期 2005年4月1日 ～2005年9月30日
売 上 高	468,532	535,103
売 上 原 価	342,865	391,173
販売費・一般管理費	48,892	53,638
<b>営業利益</b>	<b>76,774</b>	<b>90,291</b>
営 業 外 収 益	3,622	5,236
営 業 外 費 用	4,581	5,489
<b>経常利益</b>	<b>75,815</b>	<b>90,037</b>
<b>税金等調整前中間純利益</b>	<b>75,815</b>	<b>90,037</b>
法人税・住民税・事業税	31,304	38,660
法人税等調整額	(-) 3,484	(-) 6,135
少数株主利益	1,519	1,900
<b>中間純利益</b>	<b>46,477</b>	<b>55,611</b>

## 当期純利益／ 1株当たり当期純利益



# 単独決算の概要

## 貸借対照表

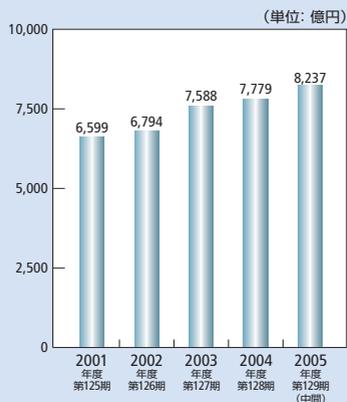
(単位:百万円)

科 目	前中間期 2004年9月30日現在	当中間期 2005年9月30日現在
<b>(資産の部)</b>	<b>(757,029)</b>	<b>(823,718)</b>
<b>流動資産</b>	<b>430,843</b>	<b>461,291</b>
現金・預金	132,711	147,445
受取手形・売掛金	158,822	164,856
有価証券	43,453	36,126
たな卸資産	36,252	40,958
短期貸付金	28,386	32,517
その他	31,217	39,388
<b>固定資産</b>	<b>326,185</b>	<b>362,426</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>109,346</b>	<b>106,035</b>
建物及び構築物	36,038	34,966
機械装置及び車両運搬具	47,317	43,509
その他	25,989	27,559
<b>無形固定資産</b>	<b>1,029</b>	<b>946</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>215,809</b>	<b>255,444</b>
投資有価証券	115,346	121,610
関係会社株式	95,441	114,425
その他	5,022	19,408
<b>合 計</b>	<b>757,029</b>	<b>823,718</b>

(単位:百万円)

科 目	前中間期 2004年9月30日現在	当中間期 2005年9月30日現在
<b>(負債の部)</b>	<b>(194,382)</b>	<b>(205,066)</b>
<b>流動負債</b>	<b>172,110</b>	<b>178,263</b>
支払手形・買掛金	96,899	109,200
短期借入金	16,420	13,283
一年以内償還転換社債	11,599	-
その他	47,191	55,779
<b>固定負債</b>	<b>22,272</b>	<b>26,802</b>
長期借入金	14,962	13,755
その他	7,309	13,047
<b>(資本の部)</b>	<b>(562,646)</b>	<b>(618,651)</b>
<b>資本金</b>	<b>113,619</b>	<b>119,419</b>
<b>資本剰余金</b>	<b>114,977</b>	<b>120,771</b>
<b>利益剰余金</b>	<b>336,609</b>	<b>370,112</b>
利益準備金	6,778	6,778
任意積立金	302,865	331,333
中間未処分利益	26,966	32,000
その他有価証券評価差額金	8,673	19,282
<b>自己株式</b>	<b>(-) 11,233</b>	<b>(-) 10,934</b>
<b>合 計</b>	<b>757,029</b>	<b>823,718</b>

## 総資産



## 株主資本/株主資本比率

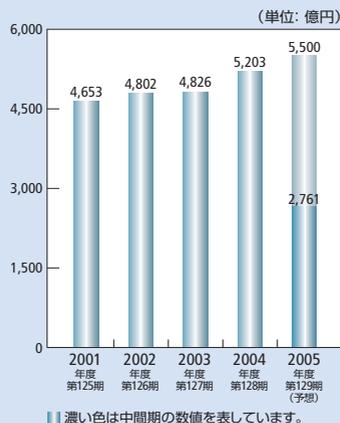


## 損益計算書

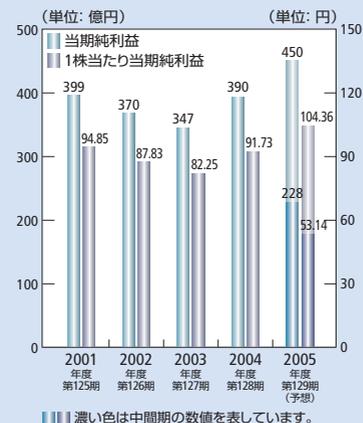
(単位:百万円)

科 目	前中間期 2004年4月1日 ~2004年9月30日	当中間期 2005年4月1日 ~2005年9月30日
売上高	256,081	276,079
売上原価	208,517	223,960
販売費・一般管理費	15,997	16,507
<b>営業利益</b>	<b>31,566</b>	<b>35,611</b>
営業外収益	2,841	2,998
営業外費用	3,364	2,581
<b>経常利益</b>	<b>31,043</b>	<b>36,027</b>
<b>税引前中間純利益</b>	<b>31,043</b>	<b>36,027</b>
法人税・住民税・事業税	12,030	15,830
法人税等調整額	(-) 530	(-) 2,590
<b>中間純利益</b>	<b>19,543</b>	<b>22,787</b>

## 売上高



## 当期純利益 / 1株当たり当期純利益



# 会社データ (2005年9月30日現在)

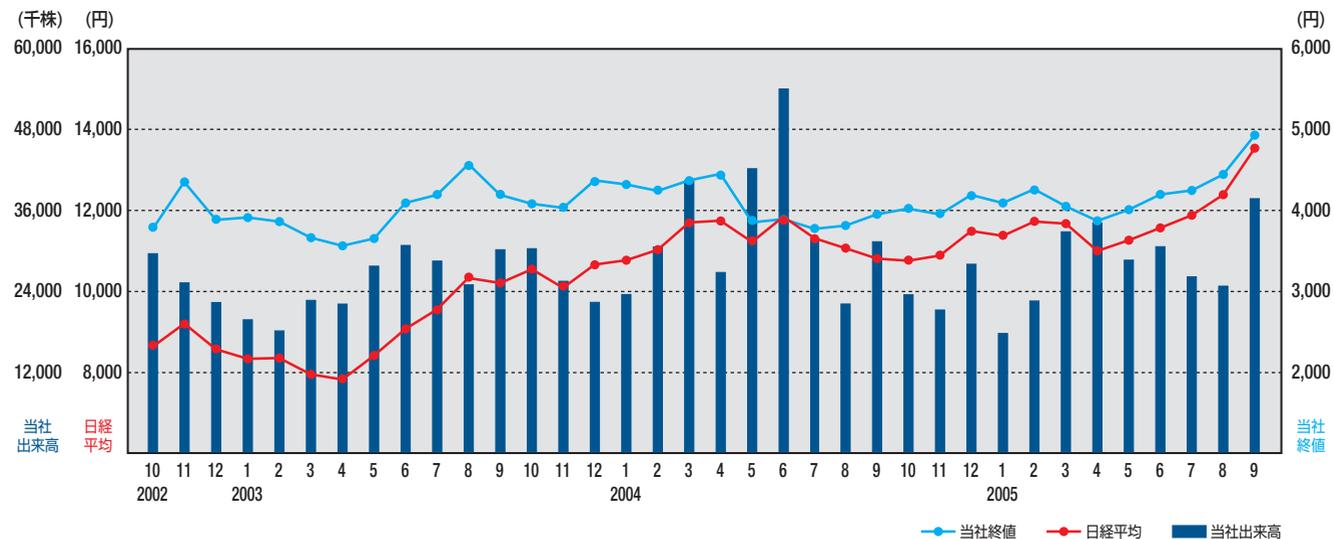
商号	信越化学工業株式会社	
本社	〒100-0004 東京都千代田区大手町二丁目6番1号 電話 03 (3246) 5091 URL : http://www.shinetsu.co.jp	
設立	1926年9月16日	
役員	代表取締役社長	金川 千尋
	専務取締役	森 俊三
	専務取締役	秋谷 文男
	専務取締役	斉藤 恭彦
	常務取締役	三木 良英
	常務取締役	幅田 紀一
	常務取締役	小野 義昭
	取締役	フランク・ピーター・ポポフ
	取締役	河野 俊二
	取締役	石原 俊信
	取締役	宮島 正紀
	取締役	中村 敦
	取締役	荒井 文男
	取締役	高杉 晃司
	取締役	笠原 俊幸
	取締役	小根澤 英徳
	常勤監査役	岡田 理
	監査役	渡瀬 昌彦
	監査役	岡崎 真雄
	監査役	福井 琢
		総務・人事関係担当、電子材料事業本部長
		精密材料事業・技術関係担当
		社長室・広報・経理・法務関係担当
		企業開発部長
		シリコン事業・環境保安関係担当
		シリコン電子材料技術研究所長、研究特許部長、新規製品部長
		米国ダウ・ケミカル社元会長
		東京海上日動火災保険(株)相談役
		新機能材料技術研究所長、新機能材料部長
		塩ビ事業本部長
		有機合成事業部長
		シンエツPVC社取締役社長、SEタイロース社取締役社長
		資材関係担当、国際事業本部長
		経理部長
		半導体事業関係担当
		ニッセイ同和損害保険(株)代表取締役会長
		柏木総合法律事務所パートナー弁護士、慶應義塾大学大学院法務研究科教授
	<small>*取締役フランク・ピーター・ポポフおよび河野俊二は商法第188条第2項第7号ノ2に定める社外取締役です。 *監査役渡瀬昌彦、岡崎真雄および福井琢は株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律第18条第1項に定める社外監査役です。</small>	
営業所	大阪支店、名古屋支店、福岡支店、札幌営業所、北関東営業所(群馬県)	
工場	直江津工場(新潟県)、武生工場(福井県)、群馬事業所/磯部工場・松井田工場(群馬県)、鹿島工場(茨城県)	
研究所	シリコン電子材料技術研究所、精密機能材料研究所(以上群馬県)、塩ビ・高分子材料研究所(茨城県)、合成技術研究所、新機能材料技術研究所(以上新潟県)、磁性材料研究所(福井県)	
従業員数	連結 18,436名(単独 2,506名)	
主要関係会社	シンテックINC.、信越半導体(株)、シンエツハンドウタイアメリカINC.、信越ポリマー(株)、S.E.H.マレーシアSDN.BHD.、シンエツPVC B.V.、信越エンジニアリング(株)、SEタイロース GmbH & Co.KG、シンエツハンドウタイヨーロッパLTD.、長野電子工業(株)、台湾信越半導体股份有限公司、直江津電子工業(株)、信越アステック(株)、三益半導体工業(株)、信越石英(株)、鹿島塩ビモノマー(株)	

# 株式の状況 (2005年9月30日現在)

発行する株式の総数	1,720,000,000株
発行済株式総数	432,106,693株
(注)自己株式2,548,451株が含まれております。	
資本金	119,419,688,785円
株主の総数	38,220名

大株主(上位10名)		
(千株未満は切捨表示)		
株主名	持株数	出資比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	42,110 <sup>千株</sup>	9.7%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	38,489	8.9
日本生命保険相互会社	21,970	5.1
株式会社新生銀行	14,813	3.4
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー-505103	12,049	2.8
株式会社八十二銀行	11,790	2.7
明治安田生命保険相互会社	11,529	2.7
日本興亜損害保険株式会社	10,077	2.3
株式会社東京三菱銀行	7,095	1.6
富国生命保険相互会社	5,877	1.4

## 株価・出来高の推移



# 株主メモ

決算期	毎年3月31日
株主配当金	毎年3月31日最終の株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された株主または登録質権者に支払います。
中間配当	実施する場合は、毎年9月30日最終の株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された株主または登録質権者に支払います。
定時株主総会	毎年6月
公告掲載新聞名	東京都において発行する日本経済新聞
1単元の株式の数	100株
株式名義書換 名義書換代理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
(連絡先)	〒171-8508 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-707-696 (フリーダイヤル)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社 全国本支店

## 単元未満株式の買取請求および買増請求

単元未満株式(100株未満の株式)の買取請求および買増請求は、上記の名義書換代理人事務取扱場所および同取次所にて受付けております。ただし、株券保管振替制度をご利用されている場合は、お取引の証券会社にお申し出下さい。なお、買増請求は、3月31日および9月30日から起算してそれぞれ12営業日前から当該日までの期間はお取扱いができませんので、ご留意下さい。

## 株式取扱手数料

名義書換 無料  
不所持株券の発行による新券の交付  
毀損、汚損、喪失による新券の交付 1枚につき200円(消費税を含む)

上場証券取引所 東京・大阪・名古屋

## お知らせ

- 住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取請求・買増請求に必要な各用紙、および株式の相続手続き依頼書のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル0120-86-4490で24時間承っておりますので、ご利用下さい。
- 配当金を郵便貯金口座へお振込みすることもできます。お手続きには振込指定書のご提出が必要ですので名義書換代理人に指定書用紙をご請求下さい。

## ホームページ

<http://www.shinetsu.co.jp>



当社ホームページでは、最新のIR情報の他、当社をご理解いただくためのさまざまな情報を発信しています。

なお、当社社案内ビデオの最新版も掲載しています。是非ご覧下さい。

# Shinetsu

## 信越化学工業株式会社

〒100-0004 東京都千代田区大手町二丁目6番1号

電話 03 (3246) 5091 URL: <http://www.shinetsu.co.jp>

証券コード: 4063

R100  
古紙配合率100%再生紙を利用

PRINTED WITH  
SOY INK  
Trademark of American Soybean Association

この冊子は100%再生紙とアメリカ大豆協会認定の大豆油インキを使用しております。